

宜野座沖大型魚礁調査

1 調査の概要

(1) 調査年月日

昭和51年1月19日～21日

(2) 調査方法

設置状況調査……レーダー、山立ておよび魚群探知機で魚礁設置場所を確認の上ブイを投入し、そのブイを中心に羅針儀で16方位(測定後作図の時自差修正)に毎分132mの速さで航走し魚探で調査した。

漁獲試験……底延縄2鉢(1鉢釣針100本付け)を1鉢ずつに分けて魚礁を南北に平行に敷設した。

(3) 調査機器類

レーダー、魚群探知機、底延縄

(4) 調査船舶

くろしお(21.44トンD 100馬力)

2 調査の結果

1図で魚礁位置と山立て図、2図で魚礁配置形態模式図、3図で主要断面図(魚探記録例)、1表で漁獲試験結果を示した。

(1) 設置場所及び山立て方法

a 設置場所……赤瀬崎の離れ岩より真方位93度3,000m

$lat\ 26^{\circ}-26'-48''N$ $long\ 127^{\circ}-58'-56''$

b 山立て方法……①名嘉真岳の左の山の頂上と漢那の鉄塔が一直線になり漢那福地川口の橋の右端よりやや右側を通り漢那沖のリーフの左側をかすめる。

②浜比嘉島の右先が高離島と平安座島の間において丁度□内の(2)のように水をたゝえた状態にみられる。

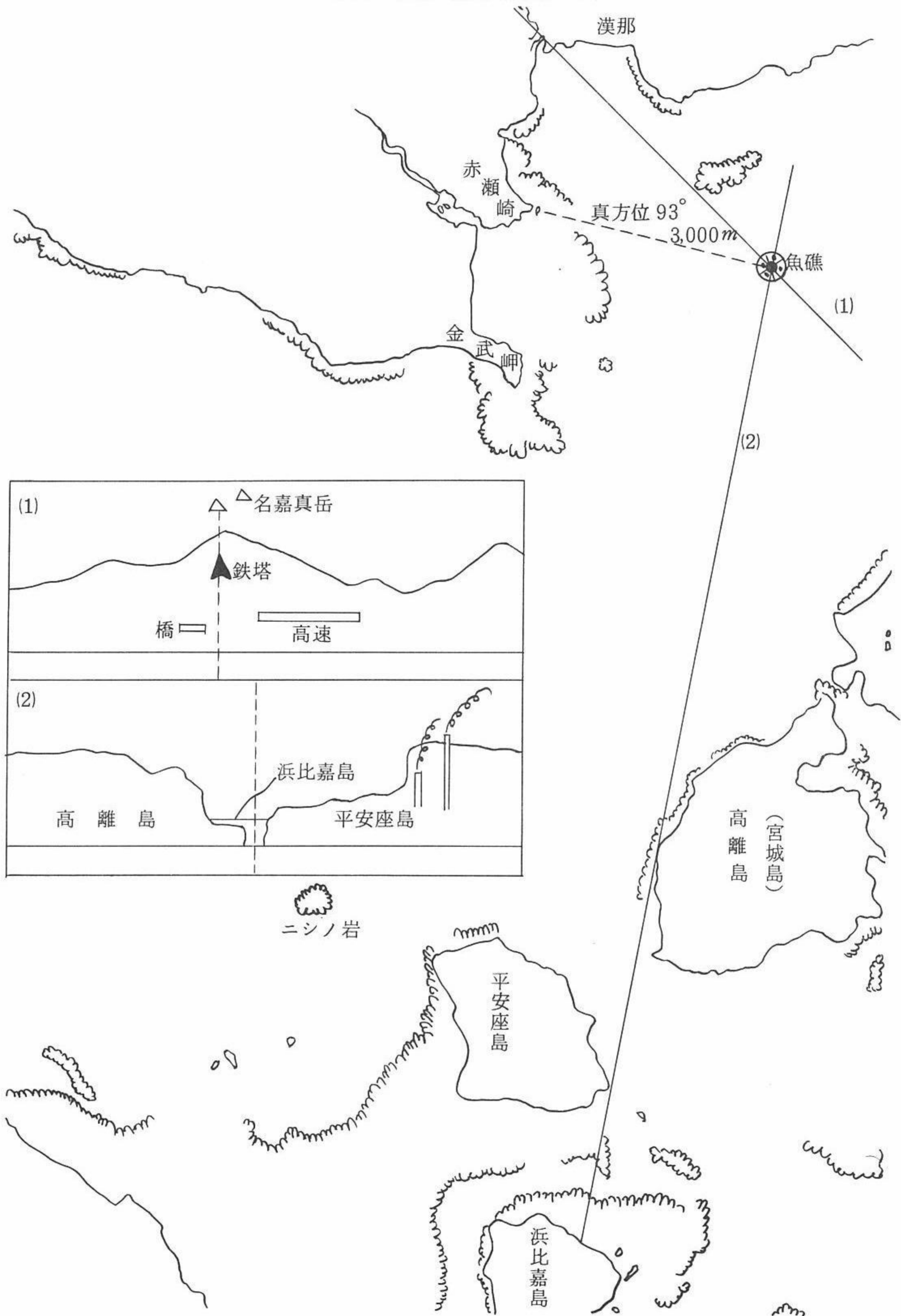
(2) 設置時期 昭和49年度

(3) 設置個数 コンクリートブロック 1.5m角 769個

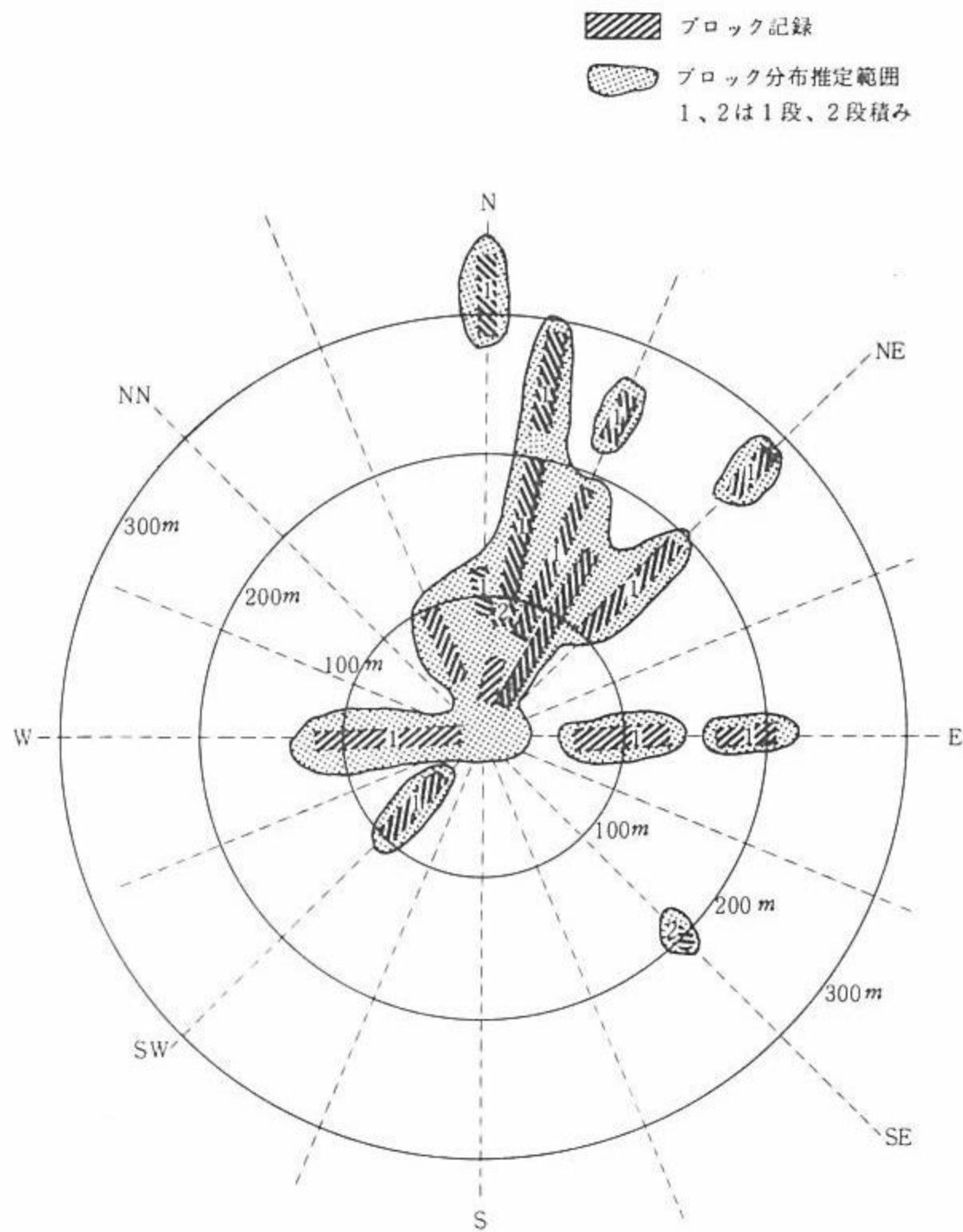
(4) 設置形態 2図のとおりやや南北に細長く約400mの長さで、巾は約350mで広がって一部2段積みもみられるが殆んど1段積みである。

(5) 漁獲試験 センネンダイ、ハモ、タテフエダイ、イトヨリ、ハマフエフキ等が蝸集しており魚礁効果はでている。試験結果は表1のとおりである。

1 図 魚礁位置と山立て図



2 図 魚礁配置形態模式図



1 表 漁獲試験結果

調査年月日	51. 1. 19	51. 1. 20
調査船舶	くろしお	〃
調査員	金城、喜屋武	〃
調査回数	1	3
調査漁具	底延縄1鉢 釣鉢数100本	底延縄1鉢 釣針300本
釣獲率	11%	5.3%
漁獲量	5,800g	5,100g
尾数	11尾	16尾
魚獲物	センネンダイ 3 (1,500g) ハウセキキントキ 1 (450g) チカメキントキ 1 (550g) タテフェダイ 1 (250g) ツチホゼリ 1 (300g) アマクチビ 1 (950g) ハモ類 2 (400g) ハマフエフキ 1 (1,400g) イトヨリダイ 2 (250g) マハタ 1 (150g) カマス 2 (1,250g) テンジクダイ類 1 (100g) ウツボ類 1 (500g)	4 (2,050g) 1 (200g) 4 (600g) 2 (250g) 1 (150g) 2 (1,250g) 1 (100g) 1 (500g)

3 図 主要断面図 (魚探記録例)

